

# 道徳

## ジャーナル

- 21世紀 心の時代に  
自分らしく生きるための勇気を与えたい  
西村宏堂……………1
- 道徳授業 私の実践  
・子どもが思わず話したくなる授業  
～発問構成×ICT活用の工夫～  
宮田 諒……………4  
・自己を見つめ、よりよく生きようとする心を  
育む道徳科を目指して  
山田将之……………6
- SDGs×道徳  
人生を導いた夏休みの宿題  
藤崎由佳……………8
- どうなるこれからの道徳授業……………10



### 型破りなお坊さん

ハイヒールを履いた僧侶——そんな呼び名を持つ  
私は浄土宗の僧侶であり、アーティスト。  
高校卒業後に米国へ渡り、メイクアップアーティスト

21世紀  
心の時代

自分らしく生きるための

勇気を与えたい



アーティスト・僧侶  
にしむらこうどう  
**西村宏堂**

ストとして経験を重ねた後、歴史あるお寺に生まれ  
た自分のルーツと向き合い、日本で修行してお坊さ  
んになりました。以来、LGBTQ当事者でもある  
自らの経験や視点から、仏教が説く「性別も人種も  
関係なく皆平等」というメッセージを発信。メイク  
やファッション、アートや言葉の力を武器に、多様  
性への啓発活動を行う活動家として、世界を飛び回  
る日々を送っています。

そんな珍しい組み合わせの肩書きを持ち、今でこ  
そ胸を張って生きている私ですが、幼い頃から自分  
や社会の在り方に悩み、十代の頃は自己肯定感が下  
がるばかりでした。それでも「自分が好きな自分で  
生きたい」「広い世界を見て成長したい」という心  
の声に耳を傾け、勇気を持って歩んだ結果、道を切  
り開いてきました。

## 自己肯定感を高める

私は男性の体で生まれ、体に違和感はないものの、物心ついた頃から「自分は男性でも女性でもない、もしくは男性でも女性でもある」と感じていました。デイズニープリンセスやセーラームーンなど、旧来の価値観からすれば女の子が好むものに惹かれ、男の子を好きになる自分のセクシュアリティにもやがて気付きました。

まだLGBTQという言葉も概念も知られていなかった時代。小学校に上がると「女の子っぽい」と揶揄されるようになり、「私の存在は社会に祝福されていないんだ」と感じて、次第に自分を出せなくなりました。



小学校の入学式での西村さん。

つらかったのは、周りの子と正直に話せなくなっただことです。「どんな女の子がタイプ？」などと聞かれるのが嫌で友達の輪に入っていけず、休み時間は教室にぼつんと一人。胸がキュートとなるようなつらさを感じました。もともと一人で過

ごすこと自体は平気でしたが、周りからかわいそうな人だとか、問題がある人だと思われるのが怖かったのです。

鬱々とした中高生時代を経て、思い切って日本を飛び出した私に転機が訪れます。留学先の米国や旅先の国々で、驚くほど多様な価値観に出会ったのです。私が目にしたのは、さまざまな背景を持ち、堂々と自分らしさを謳歌する人たちの姿。好きなメイクやファッションを楽しむ男性、長年連れ添った同性パートナーがいる大学教授など、たくさんの人との出会いを通して、今までの「当たり前」が崩れていき、自分を隠さずにいる幸せを知りました。

これまでの人生の三分の二近く、ずっと自己肯定感が低かった私。もっと自分を好きになりたいくて、友人と始めたのが「ほめ殺しゲーム」です。お互いのいいと思うところを、目に見えるものと見えないもの、十個ずつ言い合うのです。やっぱりと思うものもあれば、初めて知ることもあり、短所だと考えていた部分を褒められて驚くことも。自分の魅力を客観的に教えてもらえると、大きなパワーを得られますよ。

何より、自己肯定感を高め、自分が好きな自分で生きるために欠かせないのは、応援してくれる仲間が存在です。米国の著名起業家の「周りに置く五人の平均があなたになる」という言葉がありますが、それほど近くにいる人たちの影響は大きいと思います。



背伸びをしないうで正直な心を隠さずにいられる友達。私自身は大人になるまでそんな存在に出会えず寂しかったですが、今は多様な生き方を応援してくれる人が増え、仲間を見つけやすくなっているといます。どうか焦らず探してみてください。

## 大切な人たちを励ますために

私は小さい頃から周りの人たちの可能性を高めたリ、もっと輝けるように手助けしたりすることが大好き。メイクやファッションは魔法です。その力を磨くほど、大切な人たちをもっと励ませる——そう思うようになったきっかけがありました。

留学中、学生生活に悩む友人を励まそうと、彼女に似合うメイクを施したところ、その子の表情が大きく変わったのです。「私ってかわいいじゃん……」彼女のの中に生まれた自信は、メイクを落としても消



えませんでした。  
もう一つは母の存在。もともとファッションに疎かった母を、美しいメイクやファッションの力で周りがハッとするほどすてきに変身させられたら楽しいなと思ったのです。

一方、仏教について学び始めたのは二十代半ば。十六世紀から続くお寺に生まれ、両親以外の周囲から「将来はお坊さん？」などとプレッシャーをかけられるのが嫌でした。それがあつた時、母から「知らないものを嫌うのは偏見。知って初めて語ることが

できる」と言われ、「確かに自分は仏教のことをよく知らないな」と気付いて、自分のルーツと向き合うことを決意。厳しい修行を経て、僧籍を取得しました。

仏教は「月の光が誰にも降り注ぐように、どんな人も平等に救われる」と説いています。世界にはセクシュアリティなどを理由に、宗教や伝統的な価値観によって存在を否定され、悩む人がたくさんいます。仏教を学ぼうと、世界の人に「どんな存在も間違っていない」というメッセージを伝えられるなら、僧侶の道も悪くないと考えるようになったのです。

## 世の「普通」を揺さぶりたい

振り返れば、大人から頭ごなしに「こうしなさい」と言われるのが嫌いな子どもでした。

子どもたちを導く立場にある先生は「大人だから偉い」のではなく、ぜひ「すべての存在が平等で尊重される」という思想を根底に持っていたいただきたいと思えます。自分が知っていることがすべてだと思わないでほしいのです。

時代はどんどん変わっていきます。伝統や戒律、誰かが正しいと言ったことが、必ずしも今の時代に合うかは分かりません。これが普通、絶対だと言わず、いろいろな視点や価値観を持って、子どもたちに広い選択肢や可能性を提示してあげてください。

また、この社会では集団になじめないことをあ

かも悪いことのように捉えがちですが、皆と違っていてもいいし、一人で過ごす時間があってもいいと思います。セクシュアリティだけでなく、人種や体のかたち、得意不得意など、いろいろな人がいます。どうか安易な憶測や否定は控えて。誰も仲間外れにされない場所が必要です。

そして、新たな人生へ歩み出す子どもたちには、多数派の意見や流行にとらわれず、ぜひ自分が好きな物事を深めていってほしいですね。皆と違つから目立つ、恥ずかしいと臆せず、将来につながることを考えてください。人を傷つけるようなことでは、やってみたいことに挑戦して失敗するのはすてきなこと。失敗も人生のコクになります。

世の中にはまだまだ偏見や思い込みがあふれています。この世界に生きる私たちは一人一人が多様な存在。例えば「シングルマザー」「同性愛者」「この国の人」といった従来のラベルにとらわれず、個々の人を尊重する価値観を育てていきたいと思っています。

私の願いは、すべての人が自分らしく生きるための勇気を持てるようになること、そして、自分らしく生きたいと願う人が脅かされない社会をつくることです。多様な人の声に耳を傾け、一人一人を閉じ込めてしまつて殻や偏見を壊し、凝り固まつた価値観を揺さぶる発信をしていきたい。それが私の使命だと信じています。

(取材・文／原田潤)

# 道徳授業私の実践

子どもが思わず話したくなる授業

～発問構成×ICT活用の工夫～

はじめに

私は、子どもたちが自ら考えたり、議論したりすることを楽しむ道徳授業を目指しています。そのためには、子ども自ら話したくなる工夫が大切です。

今回は、発問構成とICT活用を工夫することにより、子ども一人一人が自分の考えを持った上で、思わず話したくなる道徳授業を目指して授業に取り組みました。

授業の概要

- 主題名** 権利と義務のバランス
- 内容項目** 規則の尊重
- 教材名** 「お客様」(『新・みんなの道徳 5』学研)
- ねらい** 登場人物の心情を考えることを通して、自分の権利ばかりを主張すると他人の権利を脅かす可能性があることに気付く、自他の権利を尊重し、義務を果たしていこうとする態度を育む。
- 教材について** 主人公の「私」は遊

授業における工夫

【発問構成の工夫】

今回の実践では、さまざまなアプロ



宮崎県延岡市立  
東小学校教諭

宮田 諒

「チで価値に迫っていく発問構成を考えました。実際の発問構成は以下の通りです。」

①子どもの実態把握と価値への方向づけを図る発問

②主人公への共感的アプローチを図る発問

③男の人の言動を分析的に問う発問

④男の人の言動を批判的に捉え、自分の考えを示させる発問

⑤主人公のモヤモヤした気持ちを分析的に問う発問

まず、権利と義務について子どもがどんなことを知っているか、実態把握を行い、価値への方向づけをする意図で、発問①「権利と義務についてどんなことを知っていますか」を設定しました。

教材では、目の前で肩車をされ「私」が見えなかった主人公のモヤモヤが描かれています。そこで発問②「目の前で肩車をされた私はどんな気持ちだったのだろう」を設定し、主人公への共感的視点で考えさせ、男の人への批判が子どもから出ると予想しました。その後すぐに男の人の言動に共感できるかと発問すると共感できると考える

子どもが少ないと考え、男の人に焦点をあて、なぜ肩車をしたのか分析的に考えさせる発問③「目の前で男の人はなぜそんなことをしたのだろう」を設けました。

その後、男の人の言動に共感できるか否か、自分の考えを示させて議論できるように発問④「男の人の『お客様なんですよ』の発言に共感できますか」を設けました。③を入れたことでこの発問で、男の人の言動に共感できるところもあるのではないかと考えを揺さぶり、子どもが自由に話せるきっかけをつくりました。

最後に、自分の権利ばかりを主張すると、周囲の人の権利を奪ってしまうことに気付かせたかったので、主人公のモヤモヤした気持ちを分析的に考える発問⑤「なぜ私はモヤモヤして遊園地を後にしたのだろう」を中心発問としました。

〜発問構成の工夫から見たもの〜

この発問構成で、自分の考えを伝えたいという思いが高まったと感じます。発問③を入れたことで、「確かに男の人の気持ちも分かるけど」という

発言が見られ、一方的で表面的な発言にとどまらず、子どもが自ら納得解を導き出そうとする姿が見えました。

「ICT活用の工夫」

前述の発問構成の中で、発問④では、ICTを活用して自分の考えを示し、自分と友達との考えの違いが視覚的に分かるようにしました。

実際の子どもの様子と発言を紹介します。

T…男の人の「お客様なんですよ」の発言にどれくらい共感できますか。

C全（ジャムボードで考えを示す）

C1…絶対いちばん右はしだ。

C2…全然共感できない。

C3…私も共感できない。

T…共感できない人が多いね。

C1…（真ん中に示したC4に向けて）

何で真ん中の場所に置いたの？

C4…スタッフの人の立場から考えたら守らせないといけないけど、見るために遊園地に来てるし仕方ない。

C2…みんなに権利があるからね。

C4…子どもが見たいって言ったので真ん中に置きました。

T…なるほど。じゃあ共感できない人

たちは、子どもが見たいって言っても我慢させるってこと？

C1…そうじゃなくて、一人だけって

いうのはだめだと思っ。

C2…どつちもお客様だし、同じ権利があると思っ。

T…みんな同じ権利ってどういうこと

だろう。

C5…みんな平等で、その人だけが特別じゃないってことだと思っ。

〜ICT活用で見たもの〜

クラス全員の考えを示す位置が同時進行で見えることから、真ん中へ示した友達に質問する様子が見られました。私が話し合いを促さずとも、子ども

も同士で自然に議論が進められていました。友達の見解を聞いて、自分の考えを改めたり、納得したりしながら、権利という言葉を使って価値観を深めることができていました。

おわりに

子どもが思わず話したくなる授業を目指して、発問構成とICT活用の工夫を行いました。

登場人物に共感的に考えさせるだけではなく、分析的に考えさせたり、批判的に考えさせたりすることで、中心発問が生きる発問構成が重要だと考えます。

また、ICTを活用することで、全員の考えが視覚化でき、子ども同士で質問し合ったり、考えを改めたりするきっかけになると感じました。今後も、自由に発言できる雰囲気づくりに励み、自分の考えを持ち、伝え合える工夫を取り入れていきたいです。そうすることで、子どもも教師もさらに楽しさを味わえる道徳授業ができるのだと思います。

（みやた りょう）



Google Jamboardで子どもの考えを示させる。(名前は加工済)

# 道徳授業私の実践

## 自己を見つめ、よりよく生きよう とする心を育む道徳科を目指して

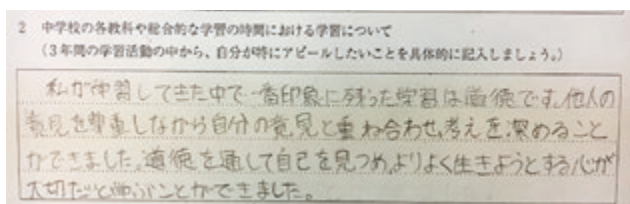


岩手県盛岡市立  
上田中学校教諭

山田 将之

### はじめに

三年生を担当したある年、進路指導主事の先生から、「これを見てください。」と一枚の自己アピールカードを手渡されました。その中には「中学校の各教科や総合的な学習の時間における学習について」という項目で、三年間の学習活動の中から、自分が特にアピールしたいことを具体的に記入する欄がありました。その生徒は、「一番印象に残った学習は道徳です。」と、道徳の学習で学んだことを記していま



した。それが上の画像です。この生徒が中学校三年間の学習で学びを深めた時間として「道徳」を選んできたことを素直に喜び、これからも、生徒が自己を見つめ、よりよく生きようとする心を育むことのできる道徳科授業をしていきたい

と決意を新たにしました。この生徒が巣立ってから数年が経ちますが、その思いは今でも変わりません。現在は学級担任を外れているので、継続的な取り組みができないことを少し寂しく思いますが、学級を貸してくれる同僚のおかげで、生徒たちと道徳科の学習ができる幸せをかみしめています。

### 教材について

- 教材名 裏庭での出来事
- 主題名 判断する拠り所
- 内容項目 自主、自律、自由と責任

○ねらい 登場人物の健二を謝罪へ向かわせたのは何か考えることを通して、周囲に左右されず判断することの大切さに気付き、責任を持って主体的に判断しようとする態度を育てる。

### 授業の実際

#### 【導入】

- T みんなは昼休みどう過ごしてるの？
- S 廊下で友達と話しています。
- S 外でボール遊びします。
- T 今日みんなと学習するお話の主人公たちは、昼休みにサッカーをするんだって。登場人物は三人。雄一君、大輔君、そして健二君。三人で裏庭でサッカーしてたんだけど、物置の軒下で鳥の巣があったんだって。
- S 学校にもツバメの巣があります！
- T そうだね！ 三人はその巣を猫が襲おうとしているのを見かけたんだ。さあ、どうしたでしょう？
- S ボールを蹴って追い払った。
- T 惜しいね。ボールを投げて、追い払おうとしたんだって。猫は驚いて逃げたので、見事成功！ でも、物置の軒下だから投げた先に物置の窓ガラス

があって割れちゃったのね。

S それはやっちゃいましたね。

T うん。ボールを投げた雄一君、この後どうしたと思う？

S 怖いから黙っていたんじゃない？

S いや、ここは謝りに行ったでしょ。

T なるほど、みんなすぐにどうするか判断できる？

S (首をかしげる)

T 迷ったり悩んだりする人もいるんだね。雄一君、先生の所に行ったんだって。今日は、このような「判断」を

テーマに学習します。なんと、事件はこれで終わらなかつたんだよ。みんなが健二君だったら、どうするかな？

考えながら読んでみましょう。

このように、生徒とやり取りしながら教材の世界に浸っていきます。教材を用いて学習する必然性を明確にして範読に入ること意識しています。

**【展開】**

T みんなが健二君だったらどうしますか？ 今日判断について考えます。黙っている？ 謝りに行く？ この線の上にネームプレートを貼ってください。

S (ネームプレートを黒板のスケー

ル表上に貼っていく。)

T 黙っている側の人が多いね。理由を教えてください。

S この状況では立場が悪くなる。

S 自分だけが悪いと思えなくて、大輔も悪いと考えてしまう。自分が謝ることでも他の人も巻き込むから。

S 私はこういう時に、職員室の前までは行くんです。でもそこから先は行けなくて逃げちゃうこともある。

T なるほどね。

S なんで謝りに行けないの？ 謝らないともやもやするし、雄一に全部なすり付けている感じになるじゃないか。

T 同じように謝りに行く理由を教えてください。

S 健二もガラスを割ってしまったのに、雄一のせいになっている。だから、ちょっと考えてから謝りに行く。

大輔みたいに自分に関係ないみたいなのは嫌いなんです。大輔にも罪があるということも言って謝りに行く。

S すぐ言わないと、隠していたと言ったこと怒られるし、他の人が密告したら先生も怒るし。だったら、素直に罪を償うべき。

T 怒られたくなくて、謝りに行くの？

S いや、けじめですよ。自分にとっても、大輔や雄一にとっても。

T 真ん中に貼った人もいるね。

S 後になると事が大きくなって、さらに言い出しにくくなる。でも、すぐに謝りに行こうという勇気が出ない。

T 健二君は、謝りに行ったけれど、職員室に向かわせたものは？

S もしも、謝りに行かなかつたら後悔すると考えた。

T 今、「もしも」の話をしてくれたね。みんなで「もしも」を考えてみよう。

S もしも謝りに行ったら、雄一との関係が壊れないし、罪も軽くなる。

S 軽くなるというより、これ以上重くならない。そして、もやもやもなくなるし、これからはこのように何かをやったとしても素直に謝ろうと思える。

T もしも黙っていたら？

S 結局はばれる。そしておおことになる。どこかでビクビクして生きなきゃならないし、自由になれない。

S 周りからもうわさされたりして傷口が広がってしまう。

S だから、健二を職員室に向かわせたものは、罪悪感じゃないかな。

S 雄一だけに背負わせてはいけな

い。自分はダメなことをしているという気持ち。

S ずるずるともやもやを引きずらず、大輔に言われるままにしたいくない。

**【終末】**

T ありがとう。今日は「判断」について考えてきたよ。大切なことは何だろう。

S 自分が本当に正しいと思うことを大事にする。

S 先のことを考える責任。

S 素直。自分の気持ちに正直に。

**おわりに**

「判断」について、スケール表で自分との関わりで考えながら、「もしも」の視点で考える学習をしました。

この学級とは、一年間で九時間の道徳科授業を行いました。最後の時間には、「山田先生は、生徒が答えるのが難しい問いと真剣に向き合い、考えることができる授業をしてくださいました。」と代表からお礼の言葉をいただきました。これからも、よりよく生きようとする心を育てる道徳科を大事にしたいです。(やまだ まさのぶ)

# 人生を導いた 夏休みの宿題

栃木県那須塩原市立  
西那須野中学校  
教諭

藤崎 由佳

## SDGs × 道徳

連載 第14回

「おめでとうございます。海外旅行が当たりました」

中学三年生の昼食中の出来事である。国語科のN先生が突然教室に入ってきて、私に告げた。私の書いた作文が「JICA地球ひろば 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」で優秀賞を取り、副賞でマレーシア研修旅行がついてきたというのだ。

まさに晴天の霹靂（へきれき）。そんなことあるんだ……と呆然としている間に、授賞式が済み、事前研修が済み、気が付いたらマレーシアに居た。

多様性の国、マレーシア。私の運命を決めた国である。

### ピースバックプロジェクト

ここで、当時の私について少し紹介させてほしい。私は日本生まれ日本育ちの両親のもと、地元中学校に通う普通の生徒だった。同年の受賞者には生育歴に外国とつながりのある人もいたが、私はそうではなかった。

受賞した作文は夏休みの宿題だった。「いくつかのテーマの中から一つ選んで書きなさい」という課題で、私はガールスカウト活動を通して考えてきたことを文にまとめるよい機会だと思い、国際協力をテーマに選んだ。

ガールスカウトとは、一九二〇年にイギリスで発足した青少年育成団体で、百五十二の国と地域で約一千万人の会員が活動している（ガールスカウト日

本連盟公式サイトより）。

私は小学一年生から高校一年生までガールスカウトに所属していた。たくさん貴重な経験をさせてもらった中で、ずっと忘れられなかったのが「ピースバックプロジェクト」だった。文房具や日用品にメッセージを添えて難民の子どもに送る活動で、小学校低学年の頃に何度か参加したと記憶している。

活動を経るごとに、私は二つの疑問を持った。第一に、なぜ店で買ってきたものではなく、家にある新品のものを探して送るのか。「もったいない」とか「誰かが自分を思ってくれていることが分かってうれしい」とかいうけど、どう説明してもこれは「お古」だ。知らない人間のお古なんて嫌ではないのか。第二に、なぜ筆記具は鉛筆に限られていて、シャープペンシルはダメなのか。シャープペンシルのほうが便利だし、何よりイケている。（小学生にとってシャープペンシルは大人っぽいアイテムだった。）

小学生だった私がぼやいたこれらの疑問について、周りの大人はたぶん答えてくれたと思う。ただ、小生意気な子どもだった私は納得しなかったのだろう。そういうわけで、この時抱いた疑問は心の中に残り続け、時々思い出しては思索の対象になっていた。そして中学三年生の夏休み、作文のテーマ一覧に「国際協力」があるのを知った私は、この件について子どもなりに考えてきたことを文章にまとめてみることにしたのである。



## 多民族とマレーシア

そんなこんなで身に余る賞をいただき、翌年のマレーシア研修に来た私だったが、そこは衝撃の地だった。なんとマレーシアには多数派の民族が三グループもあったのである。しかも、それぞれの民族同士は言語も宗教も異なる。それまで漠然と「一民族一言語、一国家」だと思い込んでいた私にとって、マレーシアは衝撃が国の形をした場所だった。

そして、マレーシア流多様性の洗礼にフラフラしている私の前に、一つの出会いが訪れる。滞在中、一泊だけお世話になった家のホストシスターとの出会いだ。中華系マレーシア人で、小学校中学年くらいだったと思う。明るくて話しやすい彼女に、私は



ガールスカウト活動をする藤崎さん（右から2番目）。

たくさん質問をした。学校のこと、マレーシアのこと、生活のこと、彼女はどの質問にも自然でよどみのない英語で答えてくれた。ところが、ある質問でのごとである。彼女は答えている途中で、ふと止まり、運転席の父親に何事か中国語で聞いたのだ。やり取りからするに「これは英語でなんというの?」と聞いたようだった。その光景を見て、私は唐突に理解した。

先に述べた通り、マレーシアは多言語国家である。人々は、自分の民族の言語を母語としているが、同時に共通語の地位にあるマレー語や英語も母語と等しく使っている。だから、私はホストシスターが英語で話しはじめても、その流暢さに感心こそすれど、当然だと思っていた。だが、ホストシスターが英語で分からなかったことを中国語で聞いた瞬間、私はある思い違いに気付いた。彼女にとって母語である中国語と英語は同じではない。彼女の言葉の世界は、生まれた時から話している母語⇨中国語の上に、共通語⇨英語の世界が乗っている。それらどちらも彼女の言葉であって、私にとっての英語のように借り物ではない。だが、彼女にとって中国語と英語は置換可能な〈同じもの〉でもない。

それまで私は、言葉や文化は一人につき一つしか持てないと思っていた。だが、別々の言語や文化を自分の中に積み重ねて、どちらも自分のものとして昇華している人がいることを、その時初めて理解したのである。

## 多文化と日本

帰国後、周りを見てみると日本にも「積み重ねて昇華している人」がたくさんいることに気が付いた。家族と話す時に使う母語（母文化）と、友人と話す時に使う日本語（日本文化）の両方を自分の中に積み重ねて、どちらも自分のものに昇華している人たちがいる。ところが、日本社会では、「どちらか」という選択肢が少なく、彼らは〇〇人か日本人かという二者択一を日常的に迫られている。無論、日本は成人の二重国籍を認めていない。だが、アイデンティティという「心の中」の話ならば、「どちらも」があってもいい。それを認められる社会になったら、彼らだけでなく、他のマイノリティにとっても、日本はもっと生きやすい国になる。その手助けがしたい。こうして私は外国につながる子どもたちの教育を大学の専攻に選んだ。

現在は、栃木県の公立中学校で英語を教えている。正直、自分には難しすぎる職だと感じる瞬間がたくさんある。それでも、私の授業を受けた生徒が、世界にはたくさんさんの言語や文化があることを知り、多様さを楽しむ大人になってくれたら、日本は中高生の頃の私が夢見た国に近づくと思っている。中学三年生の夏休みの宿題が私の人生を変えたように、中学校での出会いが人生を変えることがある。それを信じて、私は今日も教壇に立つ。

\* 中学生の時に優秀賞を受賞した藤崎さんの作文は『新・中学生の道徳 明日への扉 3』（学研）に教材として掲載しています。

# どうなるこれからの道徳授業

連載20回 家庭・地域連携編

とくちゃん



監修・廣瀬仁郎 法政大学兼任講師  
マンガ・のはらあこ



学先生

指導計画 評価 指導体制  
研修 教材準備

校長先生やほかの先生とうまく協力できていたと思うよ。

一人で抱えたら大変。チームワークが大事だからね。

学先生、一学期おつかれさま。

道徳教育推進教師の仕事、うまくできていたかなあ。

ぽんっ そうだ!!

今日はお祭りがあるからそこで考えてみよう!

行きたかったんだね

うーん

でも、学校外との連携ももっと進めたいんだよ。

家庭や地域との連携から。方法はいろいろあるよね……。

いつもお世話になってます。マイの母です。

先生の道徳便り、いつも楽しく読んでいます。今度授業も見てみたいです。

ありがとうございます。公開授業にぜひいらしてください。

うきうき 食べたいな、食べよう!

先生。

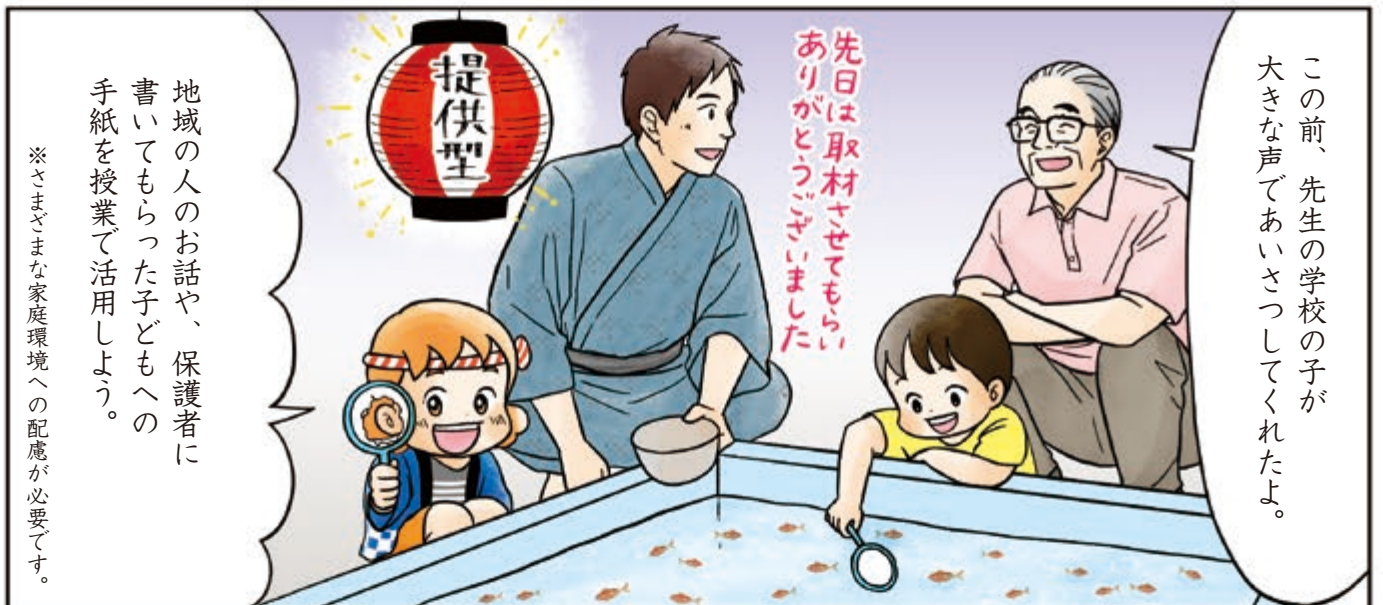


授業参観で保護者の  
考えを聞いたり、  
グループ協議や  
役割演技に参加して  
もらったりしてもいいね。



子どもたちが書いた  
ワークシートを紹介する  
こともできるね。

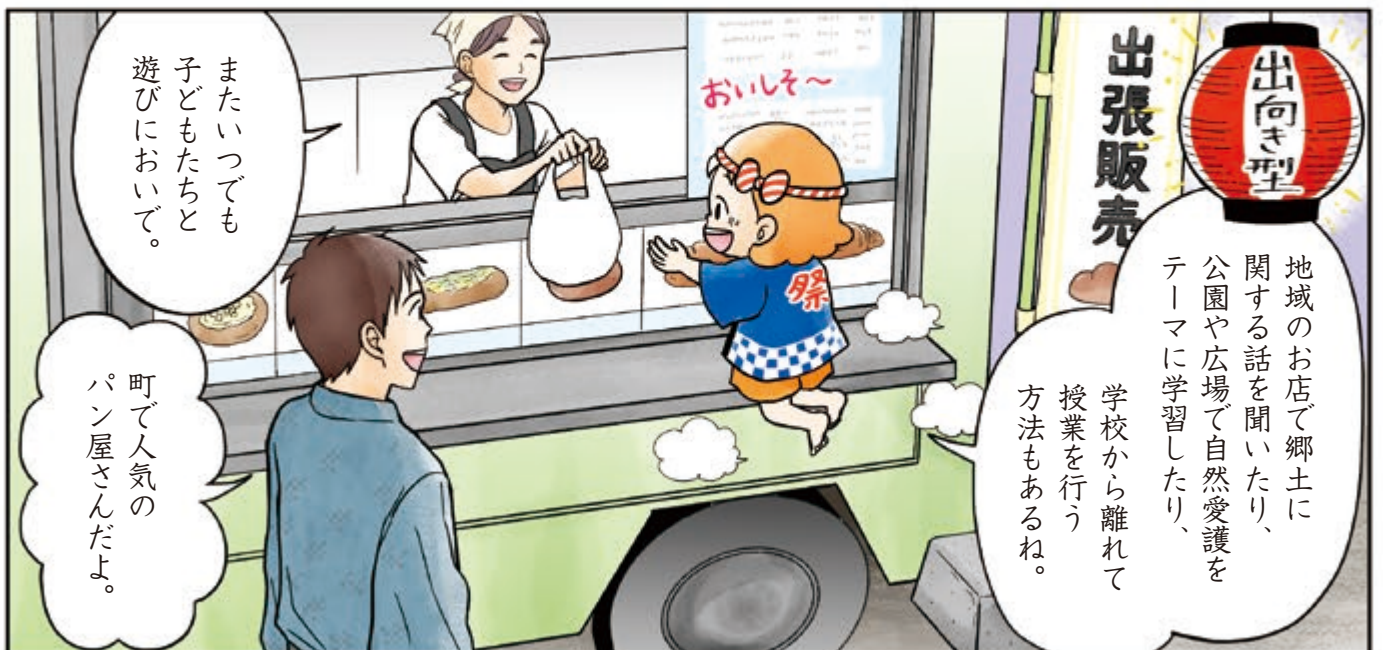
家庭や地域と連携した  
道徳授業にするために、  
道徳便りなどで  
子どもたちの考えや  
授業の様子を発信  
するのはいい方法だね。



この前、先生の学校の子が  
大きな声であいさつしてくれたよ。

地域の人のお話や、保護者に  
書いてもらった子どもへの  
手紙を授業で活用しよう。

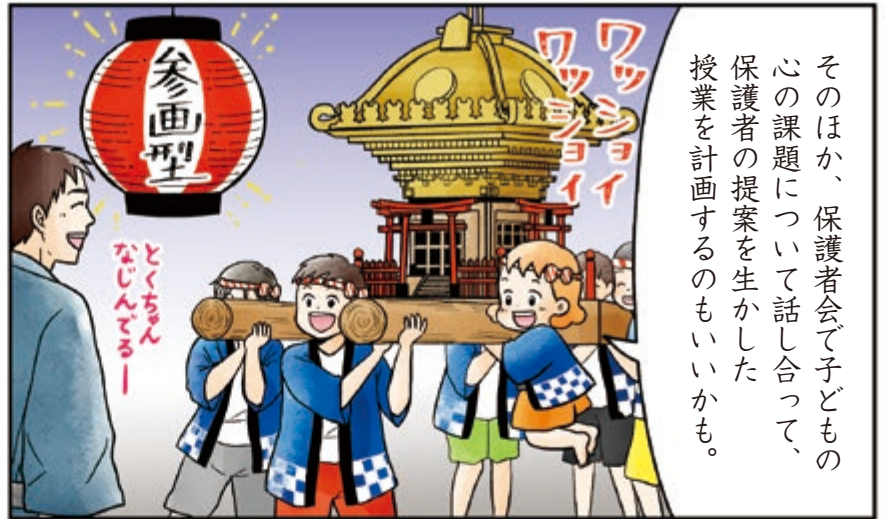
※さまざまな家庭環境への配慮が必要です。



地域のお店で郷土に  
関する話を聞いたり、  
公園や広場で自然愛護を  
テーマに学習したり、  
学校から離れて  
授業を行う  
方法もあるね。

またいつでも  
子どもたちと  
遊びにおいで。

町で人気の  
パン屋さんだよ。



**道徳ジャーナル118号** 令和5年8月発行

発行所 株式会社Gakken 発行人 甲原 洋／編集人 麻生征宏

本誌のお問い合わせ先…学校・社会人教育事業部 〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8

内容については…TEL (03) 6431-1565 (編集) それ以外のことは…TEL (03) 6431-1151 (販売)

「学研 学校教育ネット」 <https://gakkokyoiku.gakken.co.jp> ●「道徳ジャーナル」のPDF版はWEBページから。

9300009230

**\*LINE 公式アカウントのお知らせ\***

(株) Gakken おんたま先生

体育・保健体育や道徳、特別支援教育、ICT 教育などの最新情報や、  
オンラインセミナーの開催情報を配信しています。

友達  
募集中！



QRコードをスキャン  
するとLINEの友達に  
追加されます。